



誰かのために行動できて 感じる幸せ

私は新卒でコープみやざきに入協して4年目になります。所属は共同購入事業で、組合員さんのご自宅にトラックで商品をお届けする仕事をしています。

この4年間で私自身が一番成長できたと感じることは、「誰かのために役立ちたい!喜ばれたい!」という気持ちで自然に行動ができるようになったこと。相手に役立ち喜ばれることを毎日考えて仕事をしていると、私生活でもさまざまなことに気づけるようになり、相手の気持ちになって行動ができるようになりました。

就職活動をしている中で、これまでの人生を振り返った時に、家族と一緒に食事をしながら団らんする時間が一番「しあわせ!」なひと時だったことに気づきました。子どもの頃から父に言われていた「食べられることに感謝し『ありがとうございます』『ごちそうさま』を言うことを大切にしなさい」ということ。

そして母は、食事やいろいろな物事の向こう側で支えてくださっている方がいることに感謝して、普段から「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える人でした。

やがてコープみやざきで働く中、父や母が言っていたことに共感できるようになり、自然と「二人のような人になりたい」と思うようになりました。私がこんな風に思えるようになったのも、働く中で感じる「感謝すること」や「誰かのために役立ちたい!喜ばれたい!」を大切に行動できるようになったからだと思えるのです。

就職して間もない頃、朝礼で尊敬する先輩方が自分の失敗事例を発信されました。「先輩でも失敗するんだ…」と思ったのと同時に「この職場は失敗を隠さずにオープンにすることが普通のことなんだ」と衝撃を受けたことを今でも鮮明に覚えています。

今は私も、自分が失敗したことを誰かのためになればと発信できるようになりました。コーポミやざきでは【自分の失敗（成功）を他人のことのように研究する、他人の失敗（成功）を自分のことのように学ぶ】ことを大切にしています。

失敗をオープンにしてそこから一人ひとりが「学ぶ」という職場風土。これも「誰かのために」につながっていて、私もそのような行動ができるようになったことに喜びを感じています。

それともうひとつ、周りの先輩方からは「まずはやってみてから」「できている人の事例が一〇〇通りあつたら一〇〇通り全部やってみるといいよ」というアドバイス。前向きになれる勇気をもらえます。

「まずはやってみる」ことを積み重ねていくと、組合員さんに「ありがとうございます」との言葉をいただいたく場面が増え仕事のやりがいにつながっていきました。心に残っている組合員さんとのエピソードを紹介します。

ご高齢の組合員さんの納品書に共済の引き落としが記載されていて、子どもさんが加入できる【たすけあいジユニアコース】に入られていることに気づきました。その方から子どもさんのお話を伺ったことがなかったので、聴いてよいものか悩みました。勇気を出して「この共済はどなたにかけられているんですか？」と尋ねてみました。すると、お孫さんが県外でサッカーをされていることを話してください、「保障の内容を詳しく知らない」とおっしゃったので、一緒に共済のパンフレットを開きながら内容をお伝えしました。

帰り際には「この子には私がお守り代わりに共済をかけているの。これまで担当の方からこのことについて聴かれたことがなかつたわ。人には言いにくい家族のことだけど、あなたが聞いてくれて話せてよかつたわ。ありがとう」と話してくださいました。

私はこの時、勇気をもって聴いてみてよかつたと思いました。「誰かのお役に立ちたい！」と一步踏み出し行動にうつせるようになつたのは、コーポミやざきで働き、関わってくださつた先輩方のおかげです。

これまで「誰かのために」一步踏み出し行動にうつすことができなかつた私。今では「誰かのために行動し、役立ち喜ばれた時の嬉しさが、私自身の成長につながっていることを感じています。

これからもコーポミやざきで働き続けたいと思っています。私が幸せを感じてきた「食」や「くらし」「家族の団らん」。これからも、組合員さんはもちろん私自身のくらしも豊かにしていきたい。



Mao Shiraishi

失敗してもそこから学べばいい まずはやってみることを学んだ